

5月号

School Aid Japan

スクール・エイド・ジャパン



Dream通信

2011. 05. No.38

クメール正月 ～久しぶりの家族との再会～



それぞれの家や寺に帰ります



SAJcar が大活躍！



準備万端！

皆さんこんにちは。カンボジアでは一年で最も気温の高い今、毎日毎日暑い日が続いています。そろそろ乾季も終盤にかけ、時々激しいスコール(豪雨)が降り、雨季の訪れを感じさせます。

さて、今回の Dream 通信では、カンボジアの正月に当たる4月中旬に行われた、子どもたちの帰省についてお伝えします。

カンボジアの正月

カンボジアでは日本の正月にあたるものが、毎年4月の半ばに3日間あります。そのため、カンボジアでは、1月1日に在住外国人のための国際正月、2月中旬に中国・ベトナムの旧正月、4月中旬にクメール(カンボジア)正月、とそれぞれ3回の正月があります。中でも最も盛大なのがこのクメール正月。首都プノンペンでは田舎に帰るバスで道路が渋滞し、正月中のプノンペンは閑散としています。そして夢追う子どもたちの家ではこの正月と10月のお盆の年に2回、子どもたちの帰省が行われます。何日も前から子どもたちはウキウキ状態で、自分の生まれた家や寺などに帰り、故郷の家族や友達に会えることを楽しみにしています。

いざ出発！

出発前日には子どもたちとミーティングを行い、「木に登らないこと」、「食事の後は歯を磨くこと」、「毎日日記を書くこと」などの約束をしました。そして当日、出発の30分以上前にもかかわらず、子どもたちは荷物が入ったランドセルを背負い、バスに乗り込みました。忘れ物は無いか、水は持ったか等確認し、いざ出発です。1日目はバタンバンへ。2日目はプレイヴェン州、コンボンチュナン州、タケオ州など各方面のグループに分かれ、2日間で計4台の車で大移動です。正月直前で国道は混んでいましたが、子どもたちは車に付いたテレビで流れている、大好きな映画に見入っていました。また、乗り物酔いしてしまう子どもはずっと緊張した様子で外を眺めていました。



ひたすら田んぼの中を歩きます。

早朝に出発し、早い子どもは 1 時間で家に到着しますが、一番遠く、順番が最後の子どもは夕方 4 時頃やっと家に到着しました。バスの運転手に車が通れる場所ぎりぎりまで行ってもらい、そこから 20 分ほど歩いて家に行きます。何を目印にして歩いているのかと思うほど、何も無い乾季の田んぼの真ん中をスタスタと歩いていき、こちらが道を覚えるのに必死になってしまいました。夕方太陽の日差しがまだまだ暑い時間、汗をかいて家に到着すると、お婆さんが「おー、よく来たね！」と笑顔で出迎えてくれました。久しぶりに孫に会えてお婆さんも家族もとてもうれしそうでした。

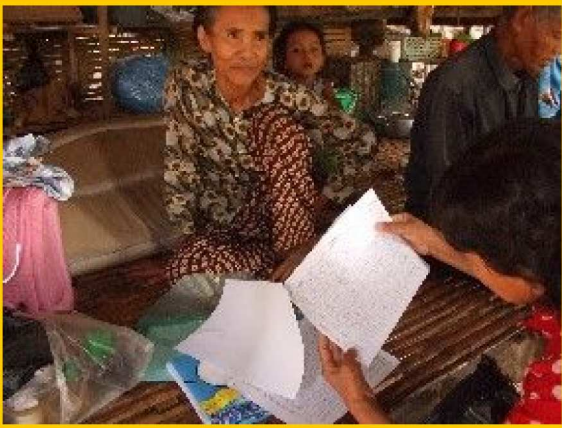
それぞれの家に到着して、園のスタッフが子どもの園での様子や成績を報告します。学校での成績が良く、大変勉強熱心だ、ということをお伝えすると、家族は喜んで子どもを褒め、子どもも照れくさそうに報告を聞いていました。また、お婆さんが「私も年を取っているし、この子は孤児なので、私の代わりにどうかこの子をよろしくお願いします」と泣きながら頭を下げる姿もありました。実際に子どもの家族に会い、一人一人の大切な子どもを預かっていることを改めて実感しました。子どもたちが将来必ず夢を叶え、家族を支える存在になって欲しいと思います。

正月を満喫

正月中カンボジアのお寺では正月飾りが施され、大きなスピーカーから音楽が大音量で流れます。その中で子どもも大人も近所の人たちと皆で一緒に歌って踊って正月を楽しみます。また、お寺ではバナナの木の上に賞金が隠してあったり、スイカ割りの要領で土鍋を割ると賞金をもらえたりと、縁日のようなゲームもたくさん用意されています。カンボジアの人たちは日本の正月の初詣同様、家族そろって毎年お寺に行くのがとても楽しみようです。

全員無事園に帰宅

1 週間後、私たちはまた一軒ずつ子どもたちの家を回り、園に連れて帰ります。以前は帰りたくないと言って泣いていた子どもも、今はすっかり大きくなり、家族に感謝と別れを告げ、家を離れます。バスの中では子どもたちの正月中の話題で持ちきりでした。ある子は近くの川に行った、ある子は別の州にいとこに会いに行ったなどの話が飛び交い、とても賑やかな車内でした。園に戻った後は気持ちを切り替え、また規則正しい生活に戻ります。家族のため、自分のために、今後も一所懸命勉強に励み、園の子どもたち全員が家族のようにお互いを思い合う、優しい子どもに育てていって欲しいと思います。



園での子どもの様子を家族に報告



久しぶりの家族、親戚との再会



正月を満喫できました！